

(研究会記録)

種々の分野における伝統と継承について

—横山禎徳氏へのインタビューから—

2016年10月より、宗祖・親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」が、聖人から数えて第25代となる専如ご門主に伝えられたことを、仏祖の御前に告げられるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願い、伝灯奉告法要が修行される。それに伴い、広範な視野をもって仏教・真宗外における「伝統」の事例を学ぶことは不可欠である。本稿は、様々な分野の事例に精通されている横山禎徳先生をお招きした研究会の記録である。

司会：みなさま、本日はお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。これより『浄土真宗総合研究』第10号の編集に関わる研究会を開催させていただきます。まず、はじめに本会開催の趣旨をご説明申し上げます。

ご承知のように、浄土真宗本願寺派総合研究所では、毎年の研究業務の成果を発表する場として、研究紀要『浄土真宗総合研究』を発刊しております。2016年度刊行予定の10号では、当該年度が「伝灯奉告法要」の年にあたることから、紀要の統一テーマを「伝灯奉告法要記念特集」と設定し、今日までの業務の蓄積をもとに、「伝灯奉告法要」に関する考察はもちろん、仏教・真宗を中心に様々な視座から「伝統」や「継承」に関する研究成果を掲載する予定でございます。

また、宗門の為すべきこと、取るべき対応を考えていく上で、広い視野をもって仏教や真宗外における事例を学ぶことは不可欠であると考えます。そこで、外部有識者を招いた研究会を開催し、種々の分野における伝統の事例をご教示いただく運びとなりました。今回は、多方面でご活躍中の横山禎徳先生にお越しいただき、インタビュー形式でお話をうかがってまいります。

横山禎徳氏プロフィール

1942年生まれ。東京大学工学部建築学科卒業、ハーバード大学デザイン大学院修了、マサチューセッツ工科大学経営大学院修了。前川國男建築設計事務所、デビス・プロディアンドアソシエーツを経て、1975年（昭和50年）マッキンゼー・アンド・カンパニー入社、1987年（昭和62年）同社ディレクター、1989年（平成元年）同社東京支社長を歴任し、2002年（平成14年）6月同社退職。その後、経済産業研究所上席研究員、産業再生機構非常勤監査役、一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授等を歴任。現在、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム特任教授、築地本願寺評議委員、県立広島大学経営管理研究科研究科長、オリックス生命、三井住友フィナンシャルグループ社外取締役などを務める。

〈主要著書〉

『東大エグゼクティブ・マネジメント デザインする思考力』、『東大エグゼクティブ・マネジメント 課題設定の思考力』、『循環思考』、『アメリカと比べない日本』など。

伝統と正統

質問：さて、早速ですが、「伝統、継承について」ということなのですが、一つ危惧があります。それは、「伝統」という言葉は、非常に曖昧で、なおかつ変えられない、逆らえないというイメージがあるのではないかと思うのです。特に、中身がはっきりしていないと、そういう面が強くなるのではないかと思うのです。伝統だから従いなさいと。今回、その点を曖昧にしたまま進めてしまうのでなくて、はっきりさせておきたいということで、例えばヨーロッパなどにおいて、また企業において、さらには茶道などの伝統芸能において、私たちが日本語で「伝統」といつているようなものは、どのように受け止められ、どのような性格を持っているのでしょうか。まずは、横山先生が造詣の深いヨーロッパの王室、あるいはバチカン等における組織における伝統の位置づけをお教えてください。

横山：難しい質問ですね。「伝統」というのは、ヨーロッパでも同じように曖昧なものだと思います。英語のトラディション (tradition) も同様に、恐らくそのなかにそこはかとなく、これは「正統」である、これは「正統」ではないという考え方があるのだらうと思います。もし、正統な王室という感覚がヨーロッパにあるとすれば、ローマ帝国¹を継承しているということで、これがすごく大切なようです。歴史上、最初は迫害されたカトリック教が国教になったことから、ローマ帝国と一体になったという考えがあり、カトリック教は正統になりました。ローマ・カトリック²だけでなく、いろいろな宗派があったのをご存じですね。グノーシス派³や、

-
- 1 西洋古代における最大の国家。2世紀初頭には最大版図を実現し、西はイベリア半島から北アフリカ、中東、バルカン半島にまで領土を拡大した。皇帝崇拜を進めるためキリスト教に対する迫害を行ったが、コンスタンティヌス1世（在位 324-337）のとき「ミラノ勅令」（313年）でキリスト教を公認、テシオドス1世（在位 379-395）のときに、キリスト教を国教とし、他の宗教を異端とし、キリスト教と深く結びつくようになる。
 - 2 キリスト教会は、2世紀半ば頃から三位一体説を中心とする教説が形成され、古カトリック教会と呼ばれる組織化がなされる。その後、ローマ帝国内で教線を拡張し、国教となることにより、中世末にいたるまで西欧社会の精神的指導権を確保するとともに、ローマ帝国の衰退以後は王権を承認するようになり、また「教皇領」と呼ばれる領域を統治する封建領主ともなることで、世俗世界においても勢力を握るようになった。
 - 3 紀元1-2世紀に中近東一帯で流行した思想。キリスト教異端派の一つとされるがキリスト教以前の宗教思想がキリスト教を取り込んで発展。キリストの神性を求めるが、キリストの人格を忘れる傾向があるので異端とされた。

カタリ派¹⁴、ネストリウス派¹⁵など、たくさんあったわけです。

ローマ・カトリックの「正統」の歴史と意味

これはすごいことなのですが、そのほとんどにおいては、キリストは神の子ではなくて、最後にして最大の預言者だったのです。ローマ・カトリック教会だけ、神・神の子・精霊の三位一体説を唱えて、なぜかこれが残りました。他は、ほとんど迫害されています。

話が飛びますが、十字軍というのをご存じだと思いますけれども、あれはイスラム教徒であるアラブ人に対して、エルサレムを奪回するということで行ったことになっています。しかし、よくご覧になると、アルビジョア十字軍¹⁶というのがあります。これは、アルビという町にアルビジョア派というキリスト教徒がいて、それを絶滅させてしまったといいますか、ものすごくひどいことをやっています。そのため、アルビジョア十字軍というのは、あまり語りたがらないのです。キリスト教徒がキリスト教徒を押さえ込んで、ほぼ全滅させてしまったのです。アルビという町へ行かれると分かりますが、とても奇妙な教会があります。パリから 500 キロくらい西に行ったところですよ。とても異様な教会なので、もし行かれることがあったらご覧になったら良いです。外は赤れんがの要塞です。中に入ると荘厳なゴシックの、普通の教会です。どういうわけか、キリスト教は、他の宗教もそうなのですが、女性蔑視とはいわないまでも、あまり女性を尊重しません。ただ、そのアルビの教会だけ、女性のセイント（聖人）を祀っています。

そうした色々な戦いがある、ローマ・カトリック教会というのは正統ということになって、ローマ帝国と一体になってしまったのです。その後、いろいろな豪族が出てきて王朝をつくるのだけど、常にローマ帝国を継承しているというふうにして正統な王権を主張したわけです。

-
- 11,12 世紀ごろ主として南ヨーロッパで広まった二元論的宗派の総称。全フランスを統治したいフランス王とカタリ派を敵視したローマ教皇との思惑が一致し、十字軍が形成され討伐が行われた。また度重なる異端審問や弾圧により 14 世紀終わり頃には離散した。
 - コンスタンティノーブルの総大司教ネストリウス一派。キリストは神の血を分けた子とした。431 年エフェソス公会議で異端とした排斥された。後にその一派が中国に伝わり景教と呼ばれた。
 - 1209-1229. 異端派カタリ派（アルビジョア派）を征討するために、ローマ教皇イノケンティウス 3 世の呼びかけで始まり、1229 年、ルイ 8 世が、カタリ派を保護する領主を含む、南フランス諸侯を撃破し、カタリ派を打ち破るとともに南フランス全体を制圧した。

皇帝とパチカン

だから、神聖ローマ帝国⁷というのが、カール5世(1500-1558、神聖ローマ皇帝、在位1519-1556)も、フェリペ2世(1527-1598、カスティリーヤ王国・アラゴン王国国王在位1556-1598)も、みんな神聖ローマ帝国皇帝を名乗りたいのです。それが、一番正統派の伝統だから。ということで、神聖ローマ帝国の皇帝の王冠をかぶせてくれるのは、カトリック教会のローマ法王です。そういうことがずっと続いていました。

ところが、ヴォルテール(1694-1778、フランスの哲学者)の『歴史哲学序論』という歴史書があるのだけれども、その最初に「神聖ローマ帝国は、神聖でも、ローマでも、帝国でもなかった」と書いてあるのだそうです。要するに、内情はお寒いもので、それぞれの豪族が覇権争いをして、自分が正統なローマ帝国の伝統を継いでいる者なのだと言ったかっただけのことなのです。ここに「正統」ということの持つ意味が感じられるのではないのでしょうか。

ナポレオンの戴冠

それを完全に壊したのは、ナポレオン(ナポレオン・ボナパルト、1769-1821⁸)です。ダヴィッド(ジャック・ルイ・ダヴィッド、1748-1825)が描いた、「皇帝ナポレオン一世と皇后ジョゼフィーヌの戴冠式」という絵がありますね。ナポレオン皇帝が、ジョゼフィーヌ(1763-1814、フランス皇后、ナポレオンの最初の妻)にティアラを載せようとして、ジョゼフィーヌがひざまずいている絵がルーブル美術館にあります。有名な絵です。

しかし、あれは大うそなのです。なぜかというと、ナポレオンはローマ法王から戴冠されるのを拒否したのです。王冠を自分でかぶってしまったのです。それは、ローマ帝国を象徴するような王冠。大した王冠ではありませんが、その王冠を自分でかぶった。それを、友人のダヴィッドに、そのまま描けと言ったのです。ローマ法王に恥をかかせたわけです。ローマ法王を呼んでおいて、戴冠の儀式をやらせなかった。ナポレオンは、カトリック教会ではなくて、ローマ帝国から、そのまま伝統を受け継いだんだと言いたかったらしいです。しかしダヴィッドは怖くて描けないので、ジョゼフィーヌの戴冠というふうに、うそを描いてしまった。来ていない人が、たくさん描いてある。あの絵のなかには、ナポレオンのお母さんも座っているのだけど、実際は来ていません。完全なフィクションです。

7 神聖ローマ帝国(800/962-1806)は、ローマ教皇によって「ローマ皇帝」と承認された国王によって統治されたドイツおよび、その周辺を統治した帝国のこと。476年に滅亡した西ローマ帝国の後継者であるとして「ローマ皇帝」を称した。

8 貧しい貴族の家に生まれたナポレオンはフランス軍の将として才能を発揮し、フランス革命後の混乱期にあったフランスを收拾し、フランス革命の自由・平等を標榜する存在として人気を集め、一時、ヨーロッパ大陸の大半を統治下に置いた。その後、1812年に開始したロシア遠征に失敗したのを契機に失脚し、晩年はワーテルローの戦いでイギリス・プロイセン連合軍に敗れてセントヘレナ島に流され、当地にて死した。

だから、一種、ヨーロッパはローマ帝国の亡霊に、ずっと影響されていた。もし、伝統というのであれば、そういうことです。

イスラーム・肉体的継承

質問：ありがとうございます。我々のような宗教教団の場合には、一番要のところに教えを置き、親鸞聖人の教えに、必ず戻ってこなくてはいけないということになっているのです。そのため、ともすると、親鸞聖人につながっているから正統なのだ、ということになりがちだと思いました。

横山：それは、どちらかという、イスラム教ですね。ムハンマド（570-632、イスラム教の預言者⁹⁾）が預言者で、彼が言ったというよりは、神がムハンマドの口を通じて言葉を発したわけです。だから、ムハンマドが偉いわけではありません。ムハンマドは、とても商人としては賢かったかもしれないが、基本的には無知で文字の読み書きができなかったと言われているでしょう。だから、彼は文章を書いたのではなく常に語っていたので、『コーラン』¹⁰⁾は耳で聞いた方がいいらしいです。イスタンブールなどに行くと、夕暮れ時に『コーラン』が流れているのですが、なんだかいいなという感じですね。少し声明みたいなどころがあって、リズムがあって。

神がムハンマドを使って言いたいことを言っただけだから、元々、ムハンマドの子孫はどうでもいいはずなのです。ただ、こう理解する人たちと、やはりムハンマドの子孫が正統派だと思ふ人たちと、結局両方出て来てややこしくなりました。カリフ¹¹⁾とは何なのという問題はあります。イスラム教はそうなってしまったと。だけど、やはり肉体的な継承というのが大事なのではないかというのは、大事というより、それが非常に我々の気持ちになじむということが当然あるわけです。この点については、あちらがいい、こちらがいいとは言えない問題だと思ふます。

裏千家のすぐれた組織

質問：伝統の在り方といいますか、伝統というのはどういうふうにあるべきかということ、少しお聞きしたいのですけれども。3年ほど前の宗門教学会議で、先生にお越しいただきました。そのなかで、開かれた組織ということで、茶道の裏千家のことを高く評価されておられました。それで、本当に伝統的な組織であるのですけれども、そういう開かれた在り方というのが伝統的にあるのか、それとも伝統を持ちながら新しいことに挑戦されているのか。どういう状況で、今、活動されておられるかなど、お教えてください。

9 モーセ・イエス等と同じ預言者であり最後の預言者として位置づけられている。

10 クルアーン、アル・クルアーン。唯一神アッラーフから、ムハンマドへくださった啓示をまとめた聖典。全114章。

11 ムハンマド亡き後のイスラーム共同体指導者の呼称。「代理人」の意味。1922年、オスマン帝国滅亡によってカリフ不在となっていたが、2014年、ISの指導者バグダーディーがカリフを宣言した。

横山：私は組織デザインを自分の仕事としてやっていますから、裏千家¹²はよくできた組織だなど、個人的には思っています。なぜかという、インサイダー(身内)、アウトサイダー(よそ者)という仕分けをしないからです。だから、敵をつくりません。ちょうど、和紙にぼたっと墨を上から落としたりしたら滲んでいって、黒いところからだんだん色が薄いところへ何重にもなっているよう組織で。真っ白だったら、それはもう部外者だけど、少し色がついていると、うちの者、よそ者だのと仕分けしない。裏千家の家元である千宗室(第1923-。裏千家第15代家元¹³)が、やはりすごい人だと思いますけれど。あの方は中核にいて、とても魅力的な人ですね。

千宗室にお近づきになりたいという気持ちは、みんな強いわけです。私のハワイにいる友達の奥さんなんかは、とにかくそのためにものすごいエネルギーを使うわけです。ハワイだとお近づきになれるのです。千宗室が来られたら、すぐ近くにいるわけです。お食事を一緒に行けるわけ。ものすごく感動しますね。だから、京都に呼ばれて何日か座り続けて、足がおかしくなるくらい座り続けるらしいのだけど、それでも我慢してしまう。それくらいの魅力があるのです、真ん中にいる人に。近づきたいという気持ちがすごくあるから、今自分はどの辺にいるという感じが分かりますよね。そうすると、もうちょっと中へ入りたいと思います。ぼんやりとお茶を習い始めて、だんだん興味を持っていくと、自分がお師匠さんになったりする。そういう組み立てがすごくいい。ただ、真ん中にすごく魅力的な人がいて、求心力がないと駄目ですけども。

だから、裏千家がいいからあれをつくろうと、そう簡単につくれるわけではありません。長持ちするかどうかも分かりません。

日本の伝統の強さ

質問：そういう伝統は、例えば日本だと、どういうところに見られるのですか。

横山：京都には、そういう代々受け継いでいっているものがある。庶民的なレベルでも京都はそれを維持しているところだと思います。

日本の強さというのは、生活の隅々まである先祖代々の習慣、「美意識」のようなもので、それをずっと継承してきている。無意識といっていっくらい当たり前のように継承してきているのです。生活の隅々にある美意識。四季折々のいろいろなちょっとしたしきたり、行事とか。これが日本の強さだと私は思っています。ほかの国にはあまりない。完全にないとは言いません。スコットランドにはスコットランドの、アイルランドにはアイルランドのそういうものがありますけれども、日本

12 裏千家は、茶道の一派。千利休の流れをくむ表千家に対し、通りの裏側にあることから裏千家と称される。千家第三代宗旦が隠居。敷地内に茶室(今日庵)を建て、それを四男宗室に譲ったことに始まる。

13 齋号は鵬雲齋。「一碗からピースフルネスを」の理念を提唱し、道・学・実をもって世界60数か国を300回以上歴訪し、茶道文化の浸透・発展と世界平和の実現に向けた活動を展開している。裏千家の海外拠点は34か国・地域107箇所となり、昭和45年に設立の茶道留学制度により42か国から約400名の修道生を受入。(裏千家HPより)

はかなり洗練度が高いと思います。それを継承していくというのを、伝統と呼べばいいと思います。

だから、いろいろなタイプの伝統というのがあって、神聖ローマ帝国というタイプの伝統もあるし、ムハンマドの教えの継承者という伝統もあるし、日本の美意識のようなものもあるわけです。

伝統が長く継承されるために

質問：伝統の継承ということで、先生はずっと経営コンサルティングの立場で、いろいろな企業に関わって来られたと思うのですが、良い企業といいますが、長く続いていく企業には、やはり良い伝統が見られるのでしょうか。またそれは、理念なのか、組織の在り方なのか。教えていただきたいと思います。

横山：「唐様で書く三代目」という言い方があるでしょう。一代目は成り上がり者で、三代目になると教養豊かで。だから漢文が書けるのだけど、事業が失敗して自分の家を貧乏なといけな。それをすごく立派な字で書くという。それが「唐様で書く三代目」ということです。陳腐な表現ではあるのだけど、初代が成功したら、二代目は親父が貧乏なときから成り上がっている姿を見ているから、それをちゃんと維持しようと努力をするけれども、三代目は初代のそういうことを知らない。初めから、蝶よ花よで豊かに育てられて、生活力がなかったりする。三代目を越えられるかどうかというのは、何かを継承するのにすごく大事であると思います。徳川家光（1604-1651。江戸幕府第三代将軍、二代秀忠の次男^{*14}）がちゃんとそれを越えたところが徳川家のすごいところだと思います。それをサポートしたのが、異母弟の保科正之（1611-1673。徳川家康の孫、秀忠の四男^{*15}）です。

船場型の伝統の継承

江戸時代の大店を代々継いだ人物はやはり放蕩したり、あれしたりこれしたり、どうしようもないのが、たぶん出てきたと思うのです。そのことへの対応が長年の経験として蓄積し、こういうばかな金の使い方をしたもんだとか、何かそういう記憶が蓄積し、賢くなっていく。

船場^{*16}というのは、そういうふうになっていたという話がありますね。要するに、息子というのは必ずしも良いとは言えません。あまりよろしくない息子も出てくる。だから、女系家族の娘に一番優秀な番頭を妻合わせるというのがいいんだと言われます。だから、娘が生まれると良いというのは船場の常識だったというのがありますね。

それに近いのは、東京でいえば伊勢丹です。伊勢丹というのは江戸時代、日本橋

14 参勤交代、鎖国、老中・若年寄の官僚制度など幕藩体制を確立した。

15 家光・家綱を補佐した幕府重臣の一人。江戸の防災整備、玉川上水の造営に力を尽くした。陸奥会津藩初代藩主。

16 現在の大阪市中央区の地名。四十間四方の正方形の街路からなる。大阪取引所のある北浜、日本生命、りそな銀行、竹中工務店など、江戸時代からの大阪町人文化を受け継ぐ大阪経済の中心。津村別院も、この一角、御堂筋に位置する。

の反物屋。娘があって、息子はなかった。その伊勢屋に炭をいつも配達していたのも同じ伊勢屋という屋号の炭屋。娘しかいないので、親が炭を届けに来る丁稚を見初めて、婿養子に取ります。それが初代小菅丹治です。そのあと、4代くらい娘が生まれて養子を取って、2代目小菅丹治、3代目小菅丹治になった。5代目に男の子が生まれてしまった。これが5代目小菅丹治になってバブルで失敗し、それで銀行管理になってしまったのです。

だから、男の子が生まれるのは、良いようでそうでないこともあるわけです。常に優秀な跡継ぎが生まれるわけではないので徳川家も苦労している。

インターネットのもたらす快感

質問：EMP¹⁷の対談のなかで、先生は、インターネットの発展というのが、単なる情報伝達以上に人間の生活スタイルを大きく変える可能性があるというお話をされていました。今の本願寺派の現状としては、単なる情報発信ですら、まともにはできていないというところがあるのですけれども、そこはちょっと置いておいても、近い未来のなかで、ネットワークが人々の生活を、これからどのように変えていくのかをお話いただければと思います。

横山：昔、マーシャル・マクルーハン(1911-1980。メディア研究者¹⁸)という人が、『メディア・イズ・マッセージ(The Medium is the Massage)』という本を書きました。彼は、ゲーテンベルク(1398-1468。ドイツの印刷業者¹⁹)のことをすごく重視していました。マーシャル・マクルーハンというのは、本当に今考えると先駆的な人で、今の時代を、ある部分予測していました。

ゲーテンベルク以前は写本でしょう。本を読むときは、音読で読んでいました。黙読で読むようになったのは、ゲーテンベルクの活版印刷以降です。それ以前は、十分時間を取って音読をして、耳でも聞きながら理解するのです。それが黙読になると、スピードが上がります。それだけではなく、目中心の作業になります。その後、ラジオやテレビの出現でほかの感覚を動員するようになりました。あたかも感覚的にマッサージされているようなものです。

また、最近ではインターネットの出現で様相がまた大きく変わろうとしています。そのことをニコラス G. カー(1959-。アメリカの著述家)という人が『ネット・バカ』(青土社)という、元のタイトルとは違う、あまり魅力的ではない日本語タイトルの著書で詳しく指摘しています。

本を読んでいるのだけど、一冊だけでなく、いくつかの本をあちらへ行ったり、

17 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム。長年にわたって蓄積した知的資産をもとに、これからの時代が求めている厚みと深みと広がりのある課題設定・形成能力という、全人格的能力を持った人材を創り出すことを目指して2008年10月に東京大学に設置されたプログラム。

18 メディア研究の第一人者。共著に『メディアはマッサージである』(河出文庫)がある。

19 活版印刷の発明者とされる。活版印刷の普及は、ルネサンスや宗教改革に影響を及ぼした。

こちらへ行ったりしながら読むことがあります。たぶん、Kindleを持っておられる方は、恐らくたくさん本が入っていて、小説を読んでいたところを途中から、何かちょっと難しいのを読んで、疲れたら、またこちらを読むとか、いろいろやるじゃないですか。さくさく感とも少し違うのだけど、極めて便利で、マルチタスクを処理できます。そのことに、われわれは何となく快感を覚えているわけです。そのように、脳の構造も変わっていったのだと、カーは著書の中で指摘しているのです。そして、それはまずい面もあるよということを言っています。ぜひ、お読みになってください。

では、カーはこんな道具を使っていないのかというと、パッドとか、パソコンとか、これらにニューヨークでどっぷり浸っている生活をしていたので、その本を書くためにコロラドに移住したと、後書きに書いてあります。それで、完全にネット機器を捨てて禁断症状をじっと我慢して、その本を書いたと言っているわけです。そして、今どうしているのかというと、またニューヨークに帰って、どっぷり漬かっていると書いています。

SNSと宗教離れ

私が言いたいのは、そのさくさく感も大事なわけだけど、それはそれとして、一方で、何度も何度も繰り返し考えているうちに、脳のニューロンが同時発火して、ああ、そうだと分かる感覚を実体験として知りなさいと言っているわけです。脳のニューロン²⁰に、シナプスが1万個くらいついているのかな。自動発火して、それが、ぱっぱ、ぱっぱと勝手に発火しているのだけど、それが同時発火した途端に、いろいろなことがはっとつながるといえることがありそうです。

ご存知でしょうか。最近、新興宗教の信者が急速に減っていることを。有名なPLの夏の花火が、14万発だったのが今年は8万発だったと報道されていましたが、その影響かもしれません。ほとんどの新興宗教は急速に信者を減らしています。

なぜ、そう急速に信者を失っていったのか。皆さんは、理由は何だと思えますか。私は、SNSも影響しているかもしれないと思っています。SNSという、自分の安心立命というほど深刻ではないのだけど、何となく納得してしまうような生活というのが、どうもあるような気がする。

いつだったか、築地本願寺でしゃべられた、ロスで浄土真宗の布教活動しておられる日系アメリカ人の方の話が非常に面白かった。アメリカ人というのは、表面的な宗教心が一番強い国民です。日曜日に教会へ行く人のパーセンテージが一番多い国です。フランス人は、カトリックだけど、教会にほとんど行きません。そのアメリカでも、日曜日の朝の宗教的なテレビ番組が、たくさんあったのが、だんだん減っていったのだそうです。宗教心があると言われていたアメリカでも、だんだん教会に行かなくなってしまったということです。その人はおっしゃっていました。やはり教会の束縛がだんだん嫌になってしまって、それが嫌でキリスト教を抜ける。抜けるとどこへ行くかということ、少し緩いから仏教に来る。仏教も広いのですが、

20 神経系を構成する基本単位。神経細胞あるいはノイロンとも。

彼らはよく知らないまま、浄土真宗にも来るらしい。そして、メディテーションを求めるので困っているというお話でした。

日本の若い人たちも、自分なりに悟るというほどではないのだけど、何らかのメディテーションで、分かった、これでいいんだと思えるような世界があって、何かとつながる、インビジブルなコミュニティでつながることで、何となく収まってしまっているのという感じがします。

昔、ネットが始まったころオフ会といって、やはり直接会おうよというのがあったけど、最近はあまりそうでもないでしょう。会わなくてもつながっているという。つながっているけど、実はディスコミュニケーションでしかないかもしれない。コミュニケーションが出来上がっているわけではなくて、SNS でつながればつながるほど寂しくなるというパラドックスもあるわけです。秋葉原で多数の殺人をした彼は、とにかく誰か反応してくれと前の日にネットで言っているわけです。「私は、人殺しをするぞ」と言っても誰も反応しない。奇妙なコミュニケーションとディスコミュニケーションの関係がある。よく分からないのですが、そうした変化を感じます。

グーグルの背景にある一神教的発想

最近、セブン・イレブンが、オムニチャンネル²¹ というようになっているのをご存じですか。コンビニという店舗と、ネットの世界との展開と、うまく結びつけようという発想です。これは、アメリカの流通業が言い始めました。私は、最初はセブン・イレブン・ジャパンがオムニチャンネルと言ったのだと思って、すごい時代が来たなと思ったのです。しかし、やはりアメリカ発だった。

オムニがつく言葉で、何をご存じですか。オムニポテントとかオムニプレゼントという言葉があります。オムニポテントというのは、もう、すごいパワー。もう、これ以上ないという能力をオムニポテントというわけです。両方ともキリスト教の元であるユダヤ教にある一神教的な発想で、オムニポテントは、神だけです。それから、オムニプレゼントというのは、ずっとどこにも神が照らしましますという感覚です。日本人は、英語で何をを使うかという、ユビキタス (ubiquitous²²)。オムニプレゼントと使わないで、ユビキタスといいます。ユビキタスというのは、どちらかというところ々に神々がましますみたいな感覚です。少し多神教的です。

21 従来は実店舗販売、EC (電子商取引)、電話通販などが独立して存在しており、消費者は、いずれかのチャンネルを用いて商品を購入していたが、タブレットやスマホの普及にとともに、それらすべてを連動させることで、どのチャンネルで購入するかを考えずに、商品購入ができるシステムのこと。実店舗で気に入った商品がなくても、そこで他の店舗や EC 用倉庫にある品物を確認し購入することができる。

22 *ubique* は遍くという意味で、*ubiquitous* は遍在を意味し、もともと「神は遍在する」ということを意味している。IT では、あらゆる場所において、PC の支援を受けられるような世界や概念を指す。

グーグルの創始者は、ラリー・ペイジ氏（1973-。Google 設立者^{*23}）とセルゲイ・ブリン氏（1973-。Google 設立者^{*24}）なのですが、この人たちがどういう人たちかご存じですか。ラリー・ペイジのお母さんはユダヤ系です。ユダヤ人かどうかというのは、母親がユダヤ人かどうかで決まります。だから、彼はユダヤ人とカテゴリーされる。それから、セルゲイ・ブリンは、両親がユダヤ系ロシア人でアメリカに逃げてきた。だから、セルゲイなのです。

偏見かもしれないけど、グーグルには、どこかそこはとなく一神教的世界観があって、できる限り神に近づくようにというのが、オムニプレゼント。一種、病的なまでに全ての世界でパブリッシュされたものをデータベースにしてしまうという。何のためにというのではない。それからグーグルマップの写真、あれも自動車で隅から隅まで撮る。あの、隅から隅までという感覚が異様な感じがします。私は、一神教で育っていないから、異様に感じるのです。一方、セルゲイ・ブリンもラリー・ペイジも、一神教を子どものときから無意識に呼吸してきただろうと思います。それで、オムニに近づくのが自然な発想なのです。

私は、広島生まれ、広島育ちなので、安芸門徒的な表現というのは、日常の言葉のなかにあるわけです。だから、無意識に浄土真宗を呼吸する生活をしてきたかもしれないわけです。グーグルの発想には、そういう部分があるように思います。

イギリス国教会の儀式的伝統

質問：ヨーロッパには、「伝統」のイメージがあります。先生は、ヨーロッパの歴史や現代の諸事情に通じていらっしゃると思いますが、ヨーロッパにおける伝統について、いかがお考えでしょうか？

横山：ヨーロッパにも、良い伝統と悪い伝統というものがありますね。たとえば、イギリスは、いろいろな意味でかなり伝統的な国です。いろいろな伝統があります。でも、いつできたのというと、たぶん 1066 年にウィリアム・コンカラー（William the Conqueror^{*25}）がイギリスに行ったときに、いろいろなことが出来上がっている。ウィリアム・コンカラーというのは、フランス語をしゃべるノルマン人で、そこに付いて行った連中が貴族になっている。それがつくったものであって、イギリスの豪族が持っていたものとは全然違うものを持ち込んで、それを今、イギリスの伝統と言っていると思います。

23 ミシガン州立大学計算機科学・人工知能の教授である父カールとユダヤ人でミシガン州立大学でコンピュータプログラミングの教師をしている母グロリアとの間に生まれる。スタンフォード大学博士課程の時に、同じ計算機科学博士課程に所属していたセルゲイ・ブリンと出会い、1998 年に Google 社を設立。

24 ユダヤ系ロシア人としてモスクワに生まれる。父は数学者で、後にメリーランド大学数学教授。スタンフォード大学でデータマイニングを学び、ラリー・ペイジと検索システムに関する論文を共同執筆し、1998 年に Google 社を設立。

25 フランス・ノルマンディー地方の君主の子供として生まれる。1066 年、ヘイスティングスの戦いに勝利し、イングランドを征服してノルマン朝を開き（ノルマン・コンクエスト）現在のイギリス王朝の開祖となった。

それで、私は浄土真宗のいろいろな法要なんかに行って、儀式のデザインがあまりうまくないと、個人的に思っています。儀式のデザインが一番うまいのは、アングリカン・チャーチ（Anglican Church イギリス国教会²⁶）だろうと、私は思っている。イギリス国教会というのは、あれはプロテスタントかというのと、全然そんなことはない。一応、カテゴリーとしてはローマ・カトリック教会と別れたからそのようになっているけど、ヘンリー 8 世²⁷ がアン・ブーリンと結婚するために、別れちゃったということでしょう。そうすると、非常に皮肉な見方だけど、教義が重要でないから、儀式だけはうまくなるなという感じです。

イギリスの悪しき伝統

もとに戻りますと、良い伝統と悪い伝統があるという話ですが。イギリスは儀式のデザインとかそういうのがうまいのだけれど、悪い伝統というのもあります。企業経営を見ていて、イギリスの経営で一番困るのは、That's the way we do things here という言い方があることです。これが我々のやり方だよ、長年こうやっているんだよと。いろんなことで、理屈で追い詰めていっても、最後は、That's the way we do things here と言われてしまったら、もう終わりなわけです。これが、われわれがずっとやってきたことだよと。企業なのだから、時代遅れにならないように変えようよと言っても動きません。だから、それは悪い。それを伝統と呼ぶか、ただそうやってきただけという惰性でしかないのか、はっきりしない。しかし、それは悪い伝統の方に入ると思います。

死が身近な 13 世紀

13 世紀に出来上がったものというのが、どうやって時代を経ていくのかというなかに、陳腐な意味での不易流行とは別に、当時、13 世紀がどんな時代だったかということ、死体を見るというのが日常的なものであったらと思います。人の死を見るというのは、今とは、やはりかなり違う。ローマ・カトリック教会は、どうしているかということ、17 世紀初頭に設立された山猫アカデミー（アッカデーミア・デイ・リンチェイ²⁸）というものの流れをくむ法王庁立科学アカデミーを 19 世紀半ばに設立しています。山猫アカデミーの最初のメンバーのなかに、ガ

26 英国国教会、聖公会。もともと英国はカトリック国だったが、ヘンリー 8 世の離婚問題を教皇クレメンス 7 世が認めようとしなかったため、カトリック教会から分裂し、ヘンリー 8 世自らがアングリカン・チャーチの首長となった。

27 チューダー朝第二代のイングランド王。カトリックを信仰。王妃キャサリンがいたが、アン・ブーリンを愛人としようとしたところ、正式な結婚を求められたため、離婚（キャサリンとの結婚の無効）を教皇に訴えたが、反対されたためアングリカン・チャーチをローマ・カトリック教会から分離させた。

28 ローマのボルシーニ宮殿にある学会。1611 年にガリレオ・ガリレイが会員に。世界でももっとも古い科学アカデミー。1847 年に設立された新リンチェイ教皇庁立科学アカデミア（現、ローマ教皇庁立科学アカデミー）は山猫アカデミーを継承しているとされている。

リレオ・ガリレイ (1564-1642²⁹) がいるわけです。ガリレオ・ガリレイは当時のウルバヌス 8 世 (1568-1644、ローマ教皇在位 1623-1644³⁰) によって蟄居させられるのだけれど、そういう人たちが、みんないたわけです。

それで、何だかんだ今もやっているのです。i P S 細胞は、素晴らしいとか言ったり、山中伸弥京大教授を法王庁立科学アカデミーの会員に任命したりしています。ヨハネ・パウロ 2 世 (1920-2005、ローマ教皇在位 1978-2005) は、ガリレオ・ガリレイを宗教裁判にかけたのはまずかったとか、何か言っているではありませんか。遅いよという感じがするけれど、でもちゃんと言います。何か常に、時代の状況というのを研究している。サイエンスの展開も研究している。ローマ・カトリックの教義とどう関係があるのかというのを研究しているわけです。研究すればいいというものでもないし、キリスト教の教義と相いれないものは永久に残ると思います。だから、1950 年代のローマ法王、ピウス 12 世が「宗教は宗教、科学は科学。それは、別で考えればいいんじゃないの」と言ったと思うのですが。正確ではないけれど。

浄土真宗の普遍性

浄土真宗は、13 世紀以降、今日まで世間に向かって何を言ってきたのでしょうか。時代と、信者や信者でない大衆の置かれている状況に対して、ビビッドに反応していないなという感じを外部から見て感じるのです。今、日本には、世界に対していったいどのような役割があるのかというのが、私はすごく気になるわけです。普遍性のある思想を日本から一度でも出してみたいかどうかと言いたい。今が、日本の歴史上、最初にして最後のチャンスだぞと。それをやる迫力が無い。気迫が欲しいと思うんですよ。浄土真宗にも、それくらいの気迫があっていいと思います。それが私が一番気になっている。基本的に、浄土真宗というものには普遍性があるのだから。だから、宗門教学会議のときも、何だかんだとローマ・カトリック教会はやっていますよ、浄土真宗もやったらどうですかと提案した。やるべき責任があるんだよという感じなのです。そういう、本来普遍性のある思想を持っているはずなのだから、思想というか、教学というか、言葉はどれが正しいのか知りませんが、やはり、それを打ち出すべきだと。それは覇権主義でなくて、責任だぞという感じがするのですけれどもね。

司会：ありがとうございます。それでは、ここで会場からの質問をお受けしたいと思います。

29 イタリアの物理学者、天文学者、哲学者。木星の衛星の動き、金星の満ち欠け、太陽の黒点の移動などから地動説を仮説として唱えた。そのことが原因となって裁判にかけられ異端と裁定された。

30 30 年戦争のヨーロッパの混乱期に教皇在位。在位時にガリレオ・ガリレイの裁判がおこなわれた。

小さな幸せグループ

質問：宗教的な真理というのは、いつでも、どこでも照らさなくてはいけないものだから、そう意味で広く伝えていけばいいんだけども、それが、なかなか閉じこもってしまう傾向が教団にはあります。ともしびを風から守ることばかり考えていて、なかなかそれを外に向かって伝えられないという。伝統のある教団というのは、そういう保守性が非常に強くなってしまふのは致し方ないのでしょうか。

横山：それはそうです。要するに「小さな幸せグループ」というのが、組織デザインをやる際、必ず出てくるのです。多くの方は今が幸せなのです。そんなに、毎日の仕事が面白いわけではないので、人知れず「小さな幸せグループ」をつくってしまう。私は、組織改革というのを大量にやりましたが、一番足を引っ張るのが、この「小さな幸せグループ」です。邪魔をします。変わろうという意味はありません。口では何だかんだと言うのだけど、ものすごい力で元へ返そうとします。私は組織デザインをやる目的は、組織を変えるのではない、人の意識と行動を変えるんだ。箱をつくっても変わらないんだぞと言ってきました。だから、人の意識を変える。それで、行動を変えるというために、いろいろな仕掛けを組み込むのですけど、ほとんどの会社は箱だけを組変えるのです。箱を変えても何の足しにもなりません。でも、一番腹が立ったのは、部長を集めて新しい組織を説明したら、部長が自分の部に帰って、「君たち、ものすごく大きな組織改革だと思っているかもしれないけど、心配しないでくれ。今まで通りやってくれ」と言った。だから、「何なんだ。何が分かったんだ、あんたは」といって、文句を言いに行きましたけれども。

行動を変えさせるのが組織デザインなのですが、保守的というより、「小さな幸せグループ」のように、いろいろな理屈をつけて変わること拒否する人がいるわけです。組織デザインをやっているときには、これまで慣れ親しんだものを捨てようという、一種の気持ちの問題をきめ細かく扱うことが重要だと思っています。

浄土真宗が価値を発信していくためには

質問：昨日まで、防衛官僚だった柳澤協二先生の本を読んでいたら、大国の条件というのを三つ挙げられていて、一つは領土の大きさ、もう一つは生産力の大きさ、もう一つは価値を発信できるかどうか、きちんとした価値を持っているかどうかと、定義されていました。先ほどからの先生のお話は、日本はなかなか価値を発信できてこられなかったのではないかというお話だったかと思うのですが。そういう意味でいうと、われわれ仏教徒は、もしかしたらキリスト教やイスラムが持っているような外へ向かって発信していくような、普遍性を発揮させるような、そういう部分が、仏教徒的というか、日本の仏教は弱いということでしょうか。

横山：私は抽象的に言っているわけではありません。歴史を見ると、パックス・フランカ (Pax Franca; フランスによる平和) という時代があります。ルイ 14 世 (フランス王、1638-1715、在位 1643-1715³¹) からフランス革命への時代。パックス・フランカが最後に提示した一番大きな価値というのは、「ネーション・ステー

31 ブルボン朝第三代国王。王朝の最盛期を実現したことから太陽王と呼ばれる。王権神授説により絶対君主制を確立、ベルサイユ宮殿を建設。

ト (Nation State^{*32})」ですね。自分たちは王さまの持ちものじゃない、自分たちは自分たちの持ちものなんだという思想です。要するに、フランス革命^{*33}は、そういうものであったわけです。しかし、それより 100 年前、エリザベス女王というのは、私はイングランドと結婚すると言った。嫁に来ないかと何度も言われたのだけど、断っているわけです。自分が女王だぞ、イングランドと結婚すると。イングランドはイングランドなんだと彼女は言った。すごい人です。それは、少女時代、政争の中、何度も暗殺されそうにもなっている。だから、「ネーション・ステート」につながる思想をパックス・フランカよりもだいぶ前に打ち出した。

その次のパックス・ブリタニカ (Pax Britannica^{*34}) で何を打ち出したかということ、「進歩」とか「進化」という概念だと思います。カトリック教には、進歩・進化という概念はありません。「日の下、日々に新しきものなし」。『創世記』にアダムとイブが生まれて、最後の審判でより分けられるだけで、その間、人間は何も変わらない。それが一般的な信仰であり思想であったが、そうじゃないんだ、進歩・進化するんだと。チャールズ・ダーウィン (自然科学者、1809-1882^{*35}) というのは、やはり圧倒的だと思います。どう思われるかしらないけど、遺伝子とかを知らないときに、あれを言った。ものすごいショックだったと思います。ダーウィンというのは、少し欠陥のある人で、人前に出てしゃべることができなかつたので、トマス・ハックスリー (イギリスの生物学者、1825-1895^{*36}) が代弁していたのだけれど、トマス・ハックスリーは「猿の伝道者」というあだ名になった。猿から進化したのではないのだけれど、人類はとにかくものすごいショックを受けた。そういう進歩と進化というものを持ち込んだのです。

その次はパックス・アメリカナ (Pax Americana^{*37}) でしょう。パックス・アメリカナは、いつ始まっていつ終わったかということ、1935 年にスタートして

32 国民国家。近代国家の形態の一つ。ネーションは生まれ故郷が同一な者を意味し、それによって構成される国家 (=ステイト、領土、国の財産、官僚機構などの総体) という意味でネーション・ステイトという。主権がその国にいる住民に帰属することを特徴とする。ヨーロッパで起きた市民革命によってもたらされた。

33 18 世紀にフランスで起きた市民革命。封建制の廃止、教会財産の国有化、「人間と市民の権利の宣言」(人権宣言)の採択などが行われた。政治学的には、人権宣言に象徴的なように、平等な個人を単位とする国民国家の創出の過程として評価されている。

34 19 世紀半ばから 20 世紀初頭までの、産業革命の圧倒的な生産力を背景にしたイギリス帝国の時代。自由貿易、植民地化、海軍力等により、世界最大の覇権国家として君臨した。

35 生物は変異し、変異の一部は「自然選択」によって保存され、その繰り返しのよって全ての生物種が進化してきたという学説(「進化論」)を提唱。

36 イギリスの生物学者。『自然界における人間の地位』(1863)を出版し、人間が類人猿に近いことを指摘するなど、チャールズ・ダーウィンの進化論を熱烈に支持した。

37 ドルの基軸通貨化、IMF=GATT 体制、世界最大の国防費等を背景に、アメリカ主導で世界の秩序が形成され、長期にわたり世界的なレベルの戦争が生じなかつた状況を、パックス・アメリカナと呼ぶ。

1985年に終わったと考えていいのではないかと思います。というのは、アメリカが債務国から債権国に変わったのが1935年なので。パックス・アメリカーナとはなんだったのか、何の価値を提示したのかということ、アメリカン・ウエア・オブ・ライフなのです。物質的に豊かな中産階級的生活。世界には中産階級という概念はありませんでしたから。ブルジョア、プチブルジョアというように。ブルジョアというのは今の感覚では上流階級です。ほとんどの国に中産階級という概念はありません。そこにアメリカン・ウエア・オブ・ライフ。これはあまり原理主義的、教条主義的にならない。現世の穏やかな生活というのを満足して過ごし、そうやって穏やかに死んでいくというものであったわけです。ところが、その価値観が、21世紀初頭の9・11で壊されてしまった。イスラム圏で中産階級になると原理主義者になるんだと。人はパンのみで生きるにあらず。パンが満たされてくると、何のために生きているんだということの方へ目が向いていって、結局原理主義になってしまうという経験をしたわけです。それでアメリカ人は困ってしまうわけです。中産階級になると原理主義になるわけがないのだけど、イスラム圏ではなってしまうわけ。だから、アメリカのパックス・アメリカーナを支えたものというのは崩壊した。それに代わるドクトリンが必要です。オバマは頭はいい人であることは誰もが認めている。しかし、ドクマでもいいのだけど、歴代の大統領のようにアメリカ的価値観としてのドクトリンを出さない。だから、弱い大統領だと言われている。

1985年に日本がアメリカに代わって債権国になりましたが、パックス・ニッポニカというのが、アメリカの次にあるかということ、ありませんでした。それは、あれだけの経済大国になったのだけど武力がありません。日本の武力は結構すごいんだけど、独立してやっていけるほどではない。それと思想がなかった。でも今、9・11のあと、日本が世界に影響力のある思想を出そうと思えば出せる。それは私は浄土真宗のなかにあると思っているのです。それは、陳腐な表現をすれば、「足るを知る」であって、経済学のいう際限のない欲望というものではなくなると。足るを知るだけではちょっと駄目なので、もうちょっと厚みのある主張すべきなのだけど、それが浄土真宗はできるんじゃないと思っているのですが、なぜしないのと言っているわけです。もう一つ言えば、超高齢化社会という、人類始まって以来、歴史上経験したことのない社会になり、つじつまが合わないなかで、どうやってつじつまを合わせるのか。稼ぐ人と使う人のバランスが、ものすごく壊れていくわけです。北ヨーロッパがいいと言っている人はとても甘い。ゆっくりだけど、彼らも高齢化がすごく進んで、働かない人がすごく増えているわけです。だから、あの高福祉の社会は維持できない。もう分かり切っているわけ。まずフィンランドから壊れていきますよ。ところが、日本が超高齢化社会耐性が一番強い国と世界では言われている。日本から出せる思想というのがあはずです。

私が常務委員を辞めた理由をご説明すると、常務委員会で初めて出しますと言って、数字が全部チャートになった資料があったんです。折れ線グラフ・棒グラフが、二つを除いて全部右下がりなわけです。右下がりということは、じわじわ衰弱している間ということじゃないですか。それは、じわじわだから、あなたが浄土真宗にいる間になくなってしまいうことはないです。要するに、人は通常、30年後ひどいことになるということは何もほしくないですよ。30年後って、問題意識はあっても危機感がないから踏ん張りが効かない、10年後だったら踏ん張りが効くけど。どの時代

でもそうだと思うが、今の時代、今のシチュエーションに何をすればいいのかを真剣に考えるべきでしょう。

よくある現象ですが、バーの衰退と同じだと思っているんです。要するに、お客と一緒に年取っちゃう。常連客の課長が出世して社長になると、何かママもすぐく偉くなっちゃうって、敷居が高くて若者が入ってこないんです。新しい若い客が入ってこないまま、これまでの客がリタイアして来なくなって、消えるようにお店がなくなっちゃうんです。若い人がちゃんと入ってくる、リプレニッシュ (replenish) の回転が出来上がっていないから、だんだん衰弱していく。

windows of opportunity という言葉を知っていますか。窓は、いつも開いているわけじゃない、ある瞬間しか開いていないんです。何かをやるというのは、あるチャンス逃しちゃう駄目だと思うんです。いつも企業に言っていたのは、チャンスとはこんな感じだよ。厚紙にスリットを開けたものを3枚重らして、3枚をそれぞれ横に振らせる。一瞬、そのスリットが合ったときに、すっと通り抜けるんだよ、いつもできるんじゃないんだよ。

要するに、いろいろなチャンスが巡ってきているかもしれないので、もう少し時代精神に合った工夫を考えてはどうかということです。伝統とか何とか言っても始まらない。伝統は消えない、消してみろというぐらい強い伝統だから、それは忘れて、今の時代に何に、すなわち、どういう課題に応えたらいいのかということをお考えた方がいいと思いますよ。伝統は、常に結果ですよ。振り返ってみたら伝統があるということなので、今の時代精神に合うような、それも抽象的な話じゃなくて、具体的な、さっきのようなことをシステムの的に組み立てた方がいいでしょう。やはり、個人個人の努力では限界があって、そこには、もうちょっと全体を運営システムとしてつくり上げて、普通の人が普通に仕事をすると、ちゃんとうまく回り、成果が出るということをつくり上げないといけない。その代わり、ここでやっているものを全国に広げようなんていうことは絶対にやってはいけなくて、幾つかの場合に即したものを場合分けして、それぞれを組み立てたうえで細かく積み上げて試していくということをやっていく。それをやらせてもらえれば、そして、やめろと言われることがなければ、それで10年たって振り返ってみたら、ちょっと変わったかなということになると思うのです。

司会：長時間にわたり、ありがとうございます。最後は激励までいただいて、元気が出てきたように感じます。

「伝統」とは何かを問うところから、宗門が「今」何をなすべきかという議論へと発展してきたように思います。まず、「伝統」には正統と異端を分けるという意味があり、それが権威となることをご指摘いただきました。また、宗教的な伝統ということで言えば、教義が中心になりながらも「肉体的な継承」という面も出てくること、次に、日本の伝統について、裏千家の持つインサイダーとアウトサイダーを切り分けるのではなく、グラデーションのように連続している組織の強さ、更に、日本の伝統の強みは美意識にあるというご指摘も、大変に興味深いもので、宗門の運営に生かすことができるものだと思います。

そして、現代社会についても、極めて鋭い分析をいただきました。ネット社会は宗教に影響を与えつつあるのではないかという点については、強い危機感を覚えます

したし、そうしたネット社会の背景には一神教的な発想があるということからは、宗教と現代が乖離しているわけではなく、むしろ相互作用しているのだと実感させられました。そういう意味では、日本はネット社会という現代的な状況を通して、一神教的な世界に内包されつつあるのかもしれませんが。

そして、最後に「伝統」と「今」との関係について、大変貴重なご教示をいただきました。人類の歴史は、世界を覆うような価値が生まれ、価値が世界を変えていくのであり、それが破綻・挫折し、次の価値が生まれてくるということの連続である。そして、宗教は価値を発信する、伝えるというのが根本に有るわけですから、時代精神に向かい合い、そこに挑み続け、発信する気概を持って！と鼓舞していただきました。そして、それは「今」だぞと。気づいたら閉店していたバーになるのではなく、リプレニッシュの循環のある組織作り、そのための人の意識の変革を、研究所から始めたいと思っています。先生と出会って幸運の窓は開いているのですから。「伝統」とは常に「結果」であるという先生からいただいたメッセージを大切に、「今」に対してビビッドに反応し、前進していくことで、伝統を創出しつづけてまいりますので、今後ともご指導をお願いいたします。

最後になりましたが、本研究会の参加者を代表して御礼申し上げます。本日は誠にありがとうございました。